

西川町長

第6期目スタート

先の町長選挙で無投票当選した西川裕町長が7月25日（木）役場職員が迎える中、初登庁されました。西川町長は6期目を迎えるにあたり「私がこれまで町長をしていて一番に頭を悩ませたのは、市町村合併の話が出たときでした。しかし、私は小さな市町村でもできるんだという信念を持っており合併は行い



ませんでした。これからもその気持ち忘れずに他の市町村から津奈木町に住んでみたいと思われ町づくりを行います。『ONE FOR ALL, ALL FOR ONE』一人はみんなのために、みんなは一人のためにの精神で住民との情報伝達をしっかりと行い、風通しの良い行政を目指してもらいたい」と訓示を述べました。

「住みたくなる町づくり」

実現に向けて3つの基本理念

多くの人が訪れてくれる町

「外部から見て「津奈木町に住んでみたい」と思われるような町をつくつていき、たくさんの人に訪れてもらえる町を目指します」

新幹線や西回り自動車道など交通機関が充実してきた今、四季彩やグリーンゲイト、各種イベントを活用した交流促進策や「農家レストラン」などによる津奈木ならではの食品開発を進めていきます。

また他の市町村にはない美術館や野外彫刻、豊かな自然を活かした魅力ある町づくりに取り組んでいきます。

後世に残せる美しい町

「江戸時代に作られ、今も残る眼鏡橋」。先人が築いた町の財産を保存し、後世に残していきたいと考えています」

「壮大な自然が作り出した不知火海の海岸線や重盤岩、

「明るい未来に願いを込められた彫刻や昔の石工たちが築いた石橋群、自然美と人工美を合わせた「町全体美術館構想」、これらを再生・保存していく際も景観を損なわないようにしていき、先人から託された「文化」や「思い」も後世に残していきます。

誇りを持って住める町

「津奈木町の住民が、「津奈木町にはこんな良いところがあるんだ！」と自慢できる町」

素晴らしい自然環境や数々の芸術がそこらじゅうに広がる風景。今あるものを磨き最大限に活かした環境を作っていきます。また、子どもからお年寄りまで、安心して過ごせる住環境の整備、将来を担う子どもたちを町全体で育て、社会に貢献できる人材育成に力を入れたいと思います。これらを築き、町民一人一人が未来にわたって誇りをもつて暮らすことのできる町を目指します。

防災対策

近年、東日本大震災や九州北部豪雨など自然災害が多発しています。本町においても、いつ災害が起きるのかわかりません。

これらに素早く対処するためには、豪雨災害などが起きた際、この地域が浸水しやすいのかなど、本町の地理状況を把握しておく必要があります。崩壊の危険がある地域には、砂防ダムや治山ダム、急傾斜地崩壊対策事業などを進めていきます。

また、防災マップをもつ一度各世帯に配布し、どこに逃げればいいのか、どの地域が危険なのかを確認していただき、住民の皆さんに改めて自主防災意識を持つってもらうことで防災・減災に努めていきます。

第一次産業の発展

本町では、デコポンやスイートスプリングなどのかんきつ類を栽培しています。しかし、野菜や果物はどうしてもサイズが小さいなど不良品が出てきます。これらをどのように加工して、いかにうまく販売できるようにしていくかが農業発展の大きなポイントになっていくと思います。今後、このように生産者が加工・販売まで行う

人口減少に歯止め

をかけるために

本町では人口減少・少子高齢化が進んでいます。この町を未来へとつないでいくためには、この問題に歯止めをかけないといけません。その要因として雇用の場が少ないという課題が挙げられます。

本町は農林水産業の第一次産業が主となっていますが、企業などが少ないために若者が都会に出てしまい、人口が減少しています。仕事を確保するために企業誘致をしようとしても、近くに大学や高校がなく、若い

西川町長 6期目の 抱負



労働力が少ないなどの理由で、なかなか手を挙げる企業が見つからないのが現状です。

しかし、今、西回り自動車道や新幹線といった交通機関が充実してきており、近隣市町村への移動時間が大幅に短縮されました。これを活かし、連携して近隣市町村に仕事場を創設し津奈木町から通勤してもらうことはできないだろうかと考えています。

そこで、若者が住める場所を確保するため、公営住宅の増設やリニョール、空き家の有効利用などを進めていきます。

英会話力の向上

学校教育とは、子どもたち一人一人の人生を決める大事な時期だと思っています。様々な学校教育の中で、特に私がこれから力を入れていきたいことは英会話教育です。

子どもたちはこれから先、都会に出たり外資系の会社に勤めたり、時代の流れにより英語が多用される社会に出ていくことになると思います。これからの将来がある子どもたちの選択肢を増やすためにも、教育委員会や各学校と協力して英会話教育の推進や「早稲田大学国際交流プログラム」などの外国人との交流の場を設け、英会話能力の向上に努めていきます。

西川町長が目指す行政

「六次産業化」に取り組んでいきます。また、かんきつ類は関税率17%と低い税率となっています。町内だけにとどまるのではなく海外へと輸出する工夫をしていかなければならぬと思うと思います。行政としても、これまで通りインフラ整備に取り組み、インセンティブを与えていきたいと思っています。

町長以下議員、役場職員はどういうことをしているのか、なぜこういふことをしているのかが住民に見える「住民に身近な行政」を目指していきます。

また役場職員が住民と近い距離にいくことについて災害時・緊急時の情報の伝達がスムーズにでき、町の生命財産を守ることに努めようと考えます。小さい町だからこそできることだと思つので「住民に身近な行政」を目指していきます。

